

令和元年度 県立社高等学校 学校評価

教育目標

生きがいある生涯のために、生きる力と学ぶ力を身につけよう。

- 1 自立的に生きる力と生涯学び通す意欲と姿勢を培う。
- 2 規律と責任を重んじ、自立と協調の精神を養う。
- 3 思いやりや寛容の心と人権尊重の精神を養う。
- 4 豊かな心と逞しい身体を養う。

各学科のミッション

(体育科) 競技力の向上を図り、将来の体育指導者としてグローバルに活躍する人材の育成
(生活科学科) 食と栄養のスペシャリストとしてグローバルに活躍する人材の育成
(普通科) 成りたい自分になるために希望進路の実現を図り、グローバルに活躍する人材の育成
特に看護医療類型については、看護医療・スポーツ医療分野のエキスパートとして活躍する人材を育成する

令和元年度努力目標・実践目標について

令和元年度の努力目標は、

- ①キャリア教育(進路指導)の充実
- ②生徒学力の向上
- ③広報活動の充実と地域との連携推進
- ④部活動・生徒会活動の充実
- ⑤心のサポートシステムの構築

の5つの視点から整理した昨年の取組を更に充実させる方向で見直しを図った。

それぞれの年度努力目標ごとに、現状とありたい姿について全職員で話し合い、共有化を図る。

実践目標については、平成30年度の成果と課題をふまえて、担当部署ごとに整理する。

また、PDCAサイクルで学校改善が進むようにするために、スケジュール指標・活動指標・成果指標など、実践目標に応じて数値化できるものはできるだけ数値化する等、きめ細かく評価指標を設定する。

取りまとめ担当部署

- ①キャリア教育の充実→進路指導部
- ②学力の向上→教務部
- ③広報活動の充実→総務管理部
- ④部活動・生徒会活動の充実
→生徒指導部
- ⑤心のサポートシステムの構築
→保健部・人権国際部
心のサポート担当

教育方針

- 1 学校・保護者・地域との連携を密にし、魅力ある学校づくり、地域から信頼される学校づくり、安全・安心な学校づくりを推進する。
- 2 本校の特色を生かし、基礎・基本の確実な定着を図り、個性や創造性を伸ばすとともに、豊かな感性と自立して未来を切り拓く力を養う。
- 3 命と人権を尊重し、国際的な視野で多様な文化や価値観の理解と尊重する態度を養い、高い志をもって国際社会に貢献する力を培う。
- 4 厳しいなかに温かさのあるふれあいを通して、生徒理解に基づく生活指導を心がけ、生徒一人ひとりの社会性と主体的な進路選択能力を育成する。

◆評価点について
A(5点)B(4点)C(2点)D(1点)としたときの
の平均値

◆総合評価について

平均 4.1 以上・・・A 3.6 以上・・・B

平均 3.1 以上・・・C 2.6 以上・・・D

平均 2.5 以下・・・E

努力目標Ⅰ		実践目標	主担当	評価指標	総合評価	今年度の成果と課題
キャリア教育の充実 (進路指導)		(１)より充実した進路指導体制の構築 ・３年間を見すえた進路指導のあり方(進路シラバス)をまとめる。 ・学年と進路指導部の連携を密にし、情報交換を緊密にする。 ・国公立大学のＡ・Ｏ、推薦入試に対応できる進路指導体制の充実をはかる。	学年進路 進路指導部	・部会を学期に１回は実施し、学年進路行事や進路についての情報交換を行い、進路から有意義な情報を提示しているか。 ・各学年で早期に平常及び長期休業中の補習や学年の進路行事を計画し、職員会議に提示しているか。 ・３年生対象の面接対策、小論文対策を教職員が協力して実施しているか。また、そのスキルを向上させるための情報提供ができていないか。 ・生徒が利用しやすいように進路指導室の環境を整えているか。	4.1 A	(成果) ・部会は、１・３学期各１回実施した。 ・補習や進路行事について、提示できた。 ・３年生対象の面接力や文章力向上を図ることができた。 ・進路指導室の利用について、放課後の利用状況はおおむね盛況であった。 (次年度に向けて) ・３年間を見すえた進路指導のあり方(進路シラバス)をまとめる。 ・学年と進路指導部の連携を密にし、情報交換を緊密にする。 ・国公立大学の総合型選抜、学校推薦型選抜に対応できる進路指導体制の充実をはかる。
(ありがたい姿) 様々な進路の中から、自分に最も適した進路を能動的に模索し、将来どのような形で社会と関わり貢献できるかを考えることのできる生徒を育成する。また、その実現のために、粘り強く最後まで学習を続けることができる生徒および互いに高めあうことができる生徒集団を育成する。	(現状) インターンシップや体験学習の充実など、キャリア意識の醸成に寄与する種々の取り組みが実施されている。３年間を見通した進路指導のあり方をもとに一般入試まで頑張る雰囲気を持続させ、進路に対して早期の意識づけと基礎力をつけるために１年時よりの学習への取組を徹底させることが課題である。	(２)教職員の進路指導力の向上 進路状況(就職・進学)の整理と分析を行い、共通理解をしながら生徒の指導にあたる。 最新の進路情報の入手と進路指導力の向上を目指した職員研修会を充実させる。	進路指導部	・１２月と３月に「進路だより」を発行しているか。 ・「進路の手引」の内容をより充実させ、５月に発行しているか。 ・２０２０年度からの大学入試改革に関する職員研修会を開催したか。	3.8 B	(成果) ・１２月の「進路だより」は推薦・ＡＯ入試や公務員試験が途中ということもあり発行をひかえた。 ・『進路のてびき』を５月のＰＴＡ総会に合せて発行できた。 ・大学入試改革に関する職員進路研修会を５月に実施できた。 (次年度に向けて) ・職員進路研修会等を通じて、「多面的・総合的な評価」導入に関する情報を共有化していく。
		(３)学びの原動力・推進力となる体験学習の充実 高大連携を推進し、計画的に大学見学会や分野別模擬授業などに取り組む。また、産学連携を推進し、インターンシップ、職場訪問など体験学習の機会、および事前事後指導を充実させる。 体育科や生活科学科については、トップアスリートやスペシャリストから直接指導を受ける機会を充実させる。	進路指導部 学年 生活科学科 体育科	・高大連携について、大学見学会や進路ガイダンスで模擬授業等の体験ができているか。 ・就職希望者のインターンシップを就職指導の一環として有効に実施しているか。 ・生活科学科、看護医療類型において、その専門性を生かしたインターンシップを実施しているか。 ・専門学科では、「ひょうごの達人」招聘事業やインスパイア・ハイスクール事業などを活用して、本物に触れる機会を充実させているか。	4.2 A	(成果) ・２年生の就職・公務員希望者や生活科学科、看護医療類型生徒に対するインターンシップを計画的に有効に実施することができた。 ・専門学科について、「ひょうごの達人」招聘事業やインスパイア・ハイスクール事業等を通じて、本物に触れる機会をもつことができた。 (次年度に向けて) ・インターンシップについて、キャリア教育の視点から、事前・事後指導を充実させる。

努力目標Ⅱ			実践目標	主担当	評価指標	総合評価	今年度の成果と課題
生徒学力の向上		具 体 的 な 取 組	(1)教職員の教科指導力の向上 生徒の興味と意欲を高める「わかる授業」作りのために、計画的に公開授業や研究授業に取り組む。 定期的に生徒による授業評価アンケートを実施し、授業改善に役立てる。 高大接続改革をふまえて、生徒の主体的・協働的な学びを授業に取り入れる。	学力向上推進委員会 教務部 各教科	- 各教科で年間1回は授業研究会を実施しているか。 - 各教員が、年間1回は公開授業を実施しているか。 - 各教員が、年間1回は生徒による授業評価アンケートを実施し、授業改善に活かしているか。 - 生徒の主体的・協働的な学びを取り入れた授業を実施したか。 - 全科目シラバスを作成する。	3.7 B	(成果) - 授業公開は年2回実施した。2回目は外部に公開し、多数の保護者の方に授業や学習活動を見ていただくことができた。 - 一部の教科で研究授業をおこなった。 (次年度に向けて) - すべての教科で研究授業をおこない、教員の資質向上をめざす。 「総合的な探求の時間」の内容を精査し、教科横断的な学びについて研修をすすめる。
(ありがたい姿) 目標とする進路実現に必要な基礎・基本的な学力を身につけるために、積極的・意欲的に学習に取り組むことができる生徒を育てる。 さらに、学力を伸長させるため、放課後や長期休業中の補習に積極的に参加し、計画的・主体的に学習できる生徒を育てる。	(現状) 平日の平均家庭学習時間は、1・2年生の約8割が2時間未満という現状、基礎・基本的な学力が身につけている生徒が少ない。各学年で、週末課題を課したり、放課後に学力の伸長を図るための希望者補習に取り組んだり、長期休業中には普通科生徒に対する全員補習や希望者補習を実施している。	的 な 取 組	(2)学習習慣の確立 - 学習規律を確立し、生徒が真摯な態度で、授業に取り組むようにさせる。 - ポートフォリオの活用について研修を重ねていく。 - 生徒の学習活動の改善に向けて、自学自習の能力を高めるための指導法について考えていく。	学力向上推進委員会 教務部 各学年 進路指導部	- 全生徒が、学習の記録を作成しているか。 1日の家庭学習時間について、2時間以上の割合が50%以上 - 定期的な補習、計画的な週末課題が充実し定着しているか。 1・2学期末に生活実態及び学習状況調査を実施し、分析結果を指導に役立てているか。	3.2 C	(成果) - 生徒実態調査を2回おこない、生徒の学習習慣の把握に努めた。 - 家庭学習時間がなかなか伸びない。 (次年度に向けて) - ポートフォリオの活用について、他校の活用事例を参考にして、さらに研修を重ねていく。その中で、本校独自の活用方法を考えていく。 - 生徒の自学自習能力を高める。
			(3)模擬試験や資格試験の活用 定期的に模擬試験等を受験させ進路意識の向上を図る。模擬試験等の受験後の振り返り(解き直し・復習)を習慣づけ、苦手分野の克服に努めさせる。 英語検定や漢字検定、情報処理検定などの検定試験を校内で実施し、資格の取得を奨励する。	学力向上推進委員会 進路指導部 各学年	- 定期的に校内模試を実施し、受験結果を分析することによって生徒の学力を学年内や教科で共有しているか - 利用の仕方の確認や振り返りの習慣づけなど模擬試験を学力及び進路意識の向上の方策として活用できているか。 - 英検または漢検で準2級以上の資格取得者が、1年<u>30名以上</u>、2年<u>80名以上</u>、3年<u>100名以上</u>	3.7 B	(成果) - 第2学年で全員が英語検定を受験することができた。準2級、2級で多数の合格者がでたが、目標の人数に達することはできなかった。 - 定期的な模試の実施ができた。 (次年度に向けて) - 定期的な模試試験を計画実行する。 - 模試結果を分析し、生徒の学習意欲を引き出し、学習習慣の確立に向けて努力する。 - 積極的に検定試験受験をすすめ、資格の習得を奨励する。

努力目標Ⅲ			実践目標	主担当	評価指標	総合評価	今年度の成果と課題
広報活動の充実と 地域との連携推進			(１)各種通信及びホームページの充実 ・各種通信は少なくとも毎月１回発行し、ホームページに掲載する。 ホームページの更新回数を増やすとともに内容の刷新を図る。	各学年 各学科 総務管理部	・各通信は毎月１回以上発行しているか。 ・ホームページは現状に合わせた情報をアップデートしているか。 ・行事の記録なども含め、週に数回は新しい情報を発信出来ているか。	4.4 A	(成果) ・ＨＰ更新は、頻繁に行うことができた。 ・「校長室から」、「部活動新聞」などを通して、学校の様子を発信できた。 (次年度に向けて) ・学年通信など、さまざまな情報の発信に努め、学校の魅力を伝える。 ・ＨＰを精査し、新情報提供を心がける。
(ありたい姿) 常にタイムリーで正確な社高の姿を発信し、保護者や地域の方から信頼されるとともに、学校の基本情報や行事・部活動の様子など、中学生が進路選択をする際に、社高校を正しく理解できるような情報を充実させ、好感度を高めることをめざす。また、情報発信を踏まえた地域と学校の連携に取り組む。	(現状) ホームページは定期的に更新できている。学校紹介ビデオなどを新たな発想で更新していくことが求められる。オープン・ハイスクールでは生徒を活用した運営ができ、成果が上がっている。オープン・スクールにおいては参加者を増やす様々な工夫が必要である。普通科生徒が地域と連携する機会を多くする必要がある。	具 体 的 な 取 組	(２)オープン・ハイスクールの効果的な運営 毎回、異なる視点で開催し、本校のあらゆる活動を、全校を挙げて協同で運営する。生徒を前面に押し出した企画・内容で本校の育てたい生徒像を発信する機会とする。	生活科学科 体育科 総務管理部	・オープン・ハイスクールごとにプログラムの工夫をおこなっているか。 ・生徒を前面に押し出した運営になっているか。 ・学校紹介ビデオやプレゼンの内容や構成はなるべく新鮮な素材を用いたものになっているか。	4.6 A	(成果) ・夏のオープン・ハイスクールは、参加者から好評価を得られた。 ・秋のオープン・ハイスクールでも、やはり参加者からの評価は高かった。 (次年度に向けて) ・内容を精査し、新しいものも取り入れ、より学校の魅力を伝えていく。
			(３)オープン・スクールの機会と内容の充実 授業公開や学校行事、合同発表会など、地域の方をはじめ大学関係者、企業等、多くの学校関係者に教育成果を見ていただく環境を整える。	総務管理部 教務部	・授業公開週間に参観している保護者・地域等の方々が増えているか。 ・体育科、生活科学科、看護医療類型において実施する課題研究発表会をオープン・スクールとして設定しているか。 ・３学科合同発表会を実施するための環境を整えるために、課題等が議論されているか。	4.5 A	(成果) ・オープン・スクールは、保護者の来校が増え、関心の高さを感じた。 ・文化祭、体育大会は例年通り、多くの来校者があり、盛況であった。体育大会では雨、落雷のため一部の種目が中止となったが、日を改めて行われたので、生徒たちは満足げであった。 ・各科の課題研究発表、三科合同課題研究発表は、いずれも盛況であった。 (次年度に向けて) ・更に吟味を重ね、本校の教育活動を発信する機会を増やしていく。
			(４)地域との連携推進 地域貢献事業や、ボランティア活動などを通じて、地域との連携を推進し、本校の特色ある各科や部の、活動の様子を、さまざまな形で発信していく。	総務管理部 生活科学科 体育科 生徒指導部	・世代間交流や小中高連携事業などをはじめ、地域連携が積極的に行われているか。 ・ボランティア活動を通じて、さまざまな方々との交流が行われているか。 ・防災訓練や校外清掃などを通じて、各地域団体との連携がなされているか。	4.6 A	(成果) ・世代間交流や連携事業などは、大きな成果があった。 ・震災復興ボランティア、神戸マラソンボランティアなど、さまざまな交流を行うことができた。 ・防災訓練や校外清掃活動などを通じて、地域やＰＴＡとの連携を深めた。 (次年度に向けて) ・防災訓練について、次年度はより地域団体との連携を深めていく。

努力目標Ⅳ			実践目標	主担当	評価指標	総合評価	今年度の成果と課題
部活動・生徒会活動 の充実		具	(1) 規律ある部活動運営と入部率のアップ 生活三原則（時を守り・場を清め・礼を正す）を徹底し、規律ある部活動運営を心がける。また、部活動集会を開催し部活動間の交流を深めるなど、生徒の主体的な活動を支援することで部活動の活性化と入部率のアップを図る。	学年生徒指導 生徒指導部	・各部活動において、工夫を凝らした部活動紹介ができているか。 ・部活動活動実態調査の充実を図り、活性化のためのノ一部活動デーとなるよう推進しているか。 ・部活動生集会を各部からの活動報告の場になっているか。 ・部活動入部率が85%以上になっているか。	4.3 A	(成果) ・部活動入部率は5月当初で87%まで上げることができた。 ・ノ一部活動デーの推進も、各部が無理のないように推し進めることができています。 (次年度に向けて) ・部活動集会のあり方を再検討したい。
(ありがたい姿) 各種活動において自ら計画、活動ができるようにありたい。またそれらの指示が生徒主導でありたい。 具体的には、部活動の入部率が上がり、生徒会行事や各種委員会の活動が活発に行われ、生徒が生き生きとした活気に満ちあふれた学校でありたい。	(現状) ほとんどの生徒が時と場所に応じた行動・態度が取れてはいるが、自主的な行動や主体性を持った活動というところまでは達していない。 生徒会行事、委員会活動やボランティア活動および報告会など活性化した取組みが見られるようになった。 部活動の入部率は高くなったが、一方で退部者が増えている。	体	(2) 生徒会活動・ボランティア活動の充実 文化祭、球技大会、体育大会といった生徒会行事を、生徒が主体的に企画・運営できるように支援することで生徒会活動をこれまで以上に活性化させる。 また、生徒会が中心となり、各種ボランティア活動に積極的に取り組めるように環境を整える。	生徒指導部 (生徒会係)	・生徒会行事の計画案を充実させ、早い段階から取り組ませているか。 ・球技大会については、企画・運営全てを生徒会とし、各競技における補助も競技の運動部員がしているか。 ・地域清掃活動等のボランティア活動に参加した生徒が全校生徒の60%以上になっているか。	4.3 A	(成果) ・文化祭では今年度もステージ発表や工夫を凝らした催しを行うクラスが多く、充実したものとなった。 ・今年度も後期球技大会の内容を変更し、より親睦が図れるものとなった。 (次年度に向けて) ・今年度も被災地・神戸マラソンボランティア等に参加するなど、生徒に主体性を持たせた活動を展開させることができた。更に参加者を増やしていきたい。
		組	(3) 委員会活動の活性化 図書委員会を中心とした読書の推進活動、美化委員会を中心とした校内外の環境美化活動、風紀委員会を中心とした挨拶運動、保健委員会を中心とした健康で安全な生活を送るための啓発活動など、各種委員会活動を活性化させ、活気ある学校づくりに努める。	関係部署 生徒会	・各種委員会を年間2回以上実施しているか。 ・各委員会において、年間スケジュールを提示させ、活動計画案を提出させているか。 ・朝読書など、読書推進活動が行われているか。 ・年間で25回以上の挨拶運動が行われているか。 ・美化活動が実施されているか。 ・保健、安全面での啓発活動が行われているか。	3.6 B	(成果) ・18歳選挙権に対応するため、今年度も生徒会選挙ではより実際に近い選挙スタイルを実施することができた。また、コーラス大会についても3月本番を見据えて、早期から無理のない日程を組み、計画的に準備することができた。 (次年度に向けて) ・74回生のクラス減による体育大会ブロック割りの変更について、体育委員会からも提案できるように考えさせたい。

努力目標Ⅴ			実践目標	主担当	評価指標	総合評価	今年度の成果と課題
心のサポートシステムの構築		具 体 的 な 取 組	(１)教職員の専門性の向上と協働体制の構築 生徒の内面理解に基づき、自己有用感を高めて、やる気を起こさせる指導を推進する。そのために、カウンセリングマインド研修会等、教職員の専門性を高める研修会を計画的に実施する。	コーディネーター 保健部 心のサポート担当者会	・教育相談等に活用できる研修内容を計画し、教職員全体の資質・指導力の向上を図っているか。 ・全職員が、生徒情報を共有しているか。 ・特別支援委員会を中心にして、特別な支援を要する生徒に対して、組織的に指導・支援にあたれているか。	3.9 B	(成果) ・目的に応じた適切な講師を招いて、生徒の資質・教員の指導力向上を目的とした研修会を実施することができた。 (次年度に向けて) 保健部と学年・生徒指導部との連携を密にして、生徒情報を共有し、更に組織的な生徒支援を行いたい。
			(２)中学校や保護者と連携した生徒情報の収集及び共有化 入学まで中学校・保護者の協力を得て本校所定の様式である「パーソナルファイル」を作成する。日常的にパーソナルファイルを更新するとともに情報の共有化を進め、個々の生徒の指導・支援にあたる体制を整える。	各学年 体育科 心のサポート担当者会	・中学校訪問など、生徒情報の収集に努めているか。 ・定期的な三者面談等、保護者との連携ができているか。 ・拡大学年会議を学期ごとに開催し、生徒の現状を常に共有化しているか。 ・生徒パーソナルファイルの共有化により、きめ細かい生徒支援が行えているか。	4.1 A	(成果) ・特に、新入生の入学当初において、パーソナルファイルを活用することで複数教員で情報を共有することができ、教員の「協働体制」が整いつつある。 (次年度に向けて) ・日常において、更に多くの教員がパーソナルファイルを活用できるよう、その手法を考えたい。
			(３)より良い人間関係、心を支える相談体制と外部との連携 人権 HR や人権講演会等、人権感覚育成のための取り組みを充実させる。担任だけでなく、部活動顧問、教科担当など、生徒との個人面談の機会を充実させる。また、またいじめ未然防止についても生徒指導部と連携して全職員で取り組む。 教育研修所「心の教育総合センター」との連携を視野に入れる。	人権・国際理解教育担当者 特別支援教育委員会委員長	・人権 HR や講演会など、人権尊重の精神を育てる機会は充実しているか。 ・生徒との個人面談の機会が充実しているか。 ・特別に支援を要する生徒の指導について、全職員でかかわる体制が整っているか。 ・生徒指導部と連携していじめ未然防止に取り組めているか。 ・教育研修所「心の教育総合センター」との連携した相談体制を構築することができたか	4.2 A	(成果) ・人権 HR を中心に人権尊重の精神を育てる機会の充実を図れた。 ・兵庫教育大留学生との交流も定着し、異文化理解と共生の精神を育てることにつながっている。 (次年度に向けて) ・人権尊重の精神と異文化理解と共生の精神を育てる機会の充実を図りたい。